

# YAMAHA

## NATURAL SOUND CONTROL AMPLIFIER

# AVS-100

## 取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください。

このたびはヤマハコントロールアンプ AVS-100をお買い

求めいただきまして、まことにありがとうございます。

AVS-100の優れた性能を十分に発揮させるとともに、末長くご愛用いただくために、

この取扱説明書をご使用前にぜひお読みくださいますよう、お願いいたします。

またお読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

### 目次

特長	1	操作のしかた	13
ご使用のまえに	1	サラウンド再生について	15
豊かなAVライフのために	2	サラウンド再生の種類と特長	17
システム接続図	3	リモコンについて	18
各部の名称とはたらき(1)	5	故障かなと思ったら	21
各部の名称とはたらき(2)	7	参考仕様	22
接続のしかた	9	ヤマハホットラインサービスネットワーク	23

# 特長

本機は、ヤマハ最新のデジタル技術・音場処理技術を駆使し、ハイクォリティーなオーディオ特性の追及と、同時に発展型AVシステムのコントロールセンターとしてお使いいただけるよう設計されたコントロールアンプです。(フロントスピーカーを鳴らすためにパワーアンプが別に必要です)

## ●AVおよびマルチチャンネル再生の核となるAVコントロールセンター

本機はオーディオ10系統、ビジュアル5系統の入力端子およびオーディオ4系統、ビジュアル3系統の出力端子そしてフロントのフリアウト端子も2系統を装備。さらに、ロックアウトセレクターなど、AVコントロールセンターとしての機能をフルに搭載しています。加えて、S-VHS、EDベーター方式対応のSビデオ入・出力端子も装備しました。

## ●4モード・デジタルサラウンドプロセッサー内蔵

新開発のヤマハオリジナルICによる4モード・デジタルサラウンドプロセッサーを内蔵。簡単にサラウンド再生をお楽しみいただけます。

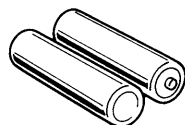
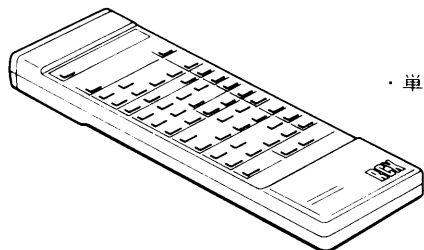
また、サラウンド効果の幅を広げるディレイタイムもコントロールすることができます。

# ご使用のまえに

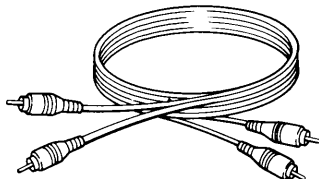
## ■付属品をご確認ください。

付属品は7種類あります。

・リモコン



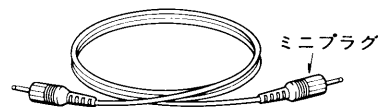
・単3乾電池 2本



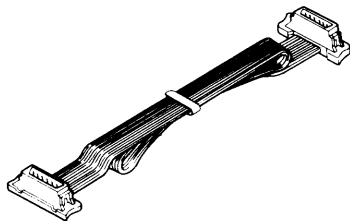
・ピンプラグコード  
(音声用ピンプラグコード)×1



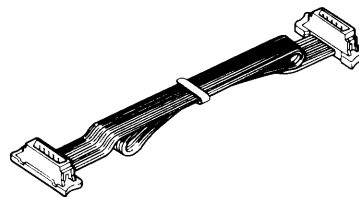
・ピンプラグコード  
(映像用ピンプラグコード)×1



・リモコンケーブル(レコードプレーヤー用)



・リモコンケーブル(6 pin)(カセットデッキ用)



・リモコンケーブル(5 pin)(チューナー用)

## ■設置場所について

本機を設置の際は通気性の良い場所を選び、放熱を妨げないようにしてください。

また、本機はデジタル機器ですので、本機を使用中は他の機器に影響を与えることがあります。テレビ画面が乱れたり、チューナーに雑音が入るようなときは、それらの機器と本機の設置場所を離してください。またテレビやチューナーが簡易型室内アンテナを使用している場合には、専用の屋外アンテナに換えますと、テレビやチューナーへの影響が軽減されることがあります。

本機をご使用にならないときは、本機のPOWERスイッチをOFFにしておいてください。



これは電子機器王様会(音のモナーク)のキャンペーンのシンボルマークです。

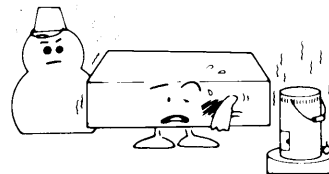
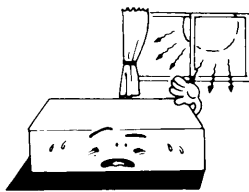
## 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

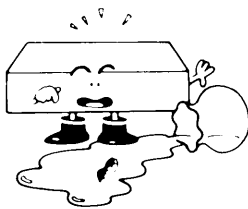
# 豊かなAVライフのために

## 高温・低温はさけて！

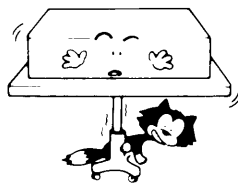
窓際や直射日光の当たる場所・暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)・温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)・湿度の多い場所(湿度90%以上)は、さけてください。



## ほこり・水気をさけて！

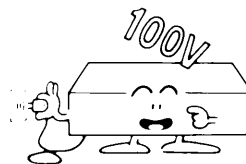


## 不安定な場所をさけて！

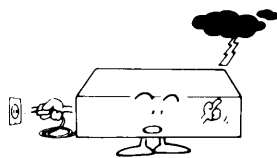


## 国内のみ使用可

家庭用電源コンセント  
AC100V

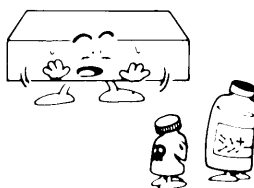


## 雷が近づいたら

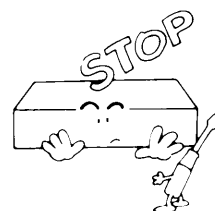


早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

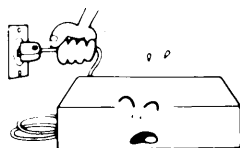
## 薬物厳禁



## 開けないで！

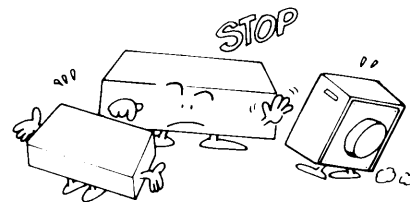


## 引っぱらないで！



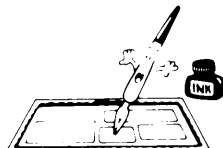
## テレビと近付けない！

本機はデジタル信号を扱いますので、電波を扱う機器に障害を与える場合があります。テレビなどとはできるだけ離して設置してください。  
障害をなくすために、テレビのアンテナには外部アンテナを使用し、同軸ケーブルで配線することをお勧めします。



## 保証書の手続きを！

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。



## こわれた？

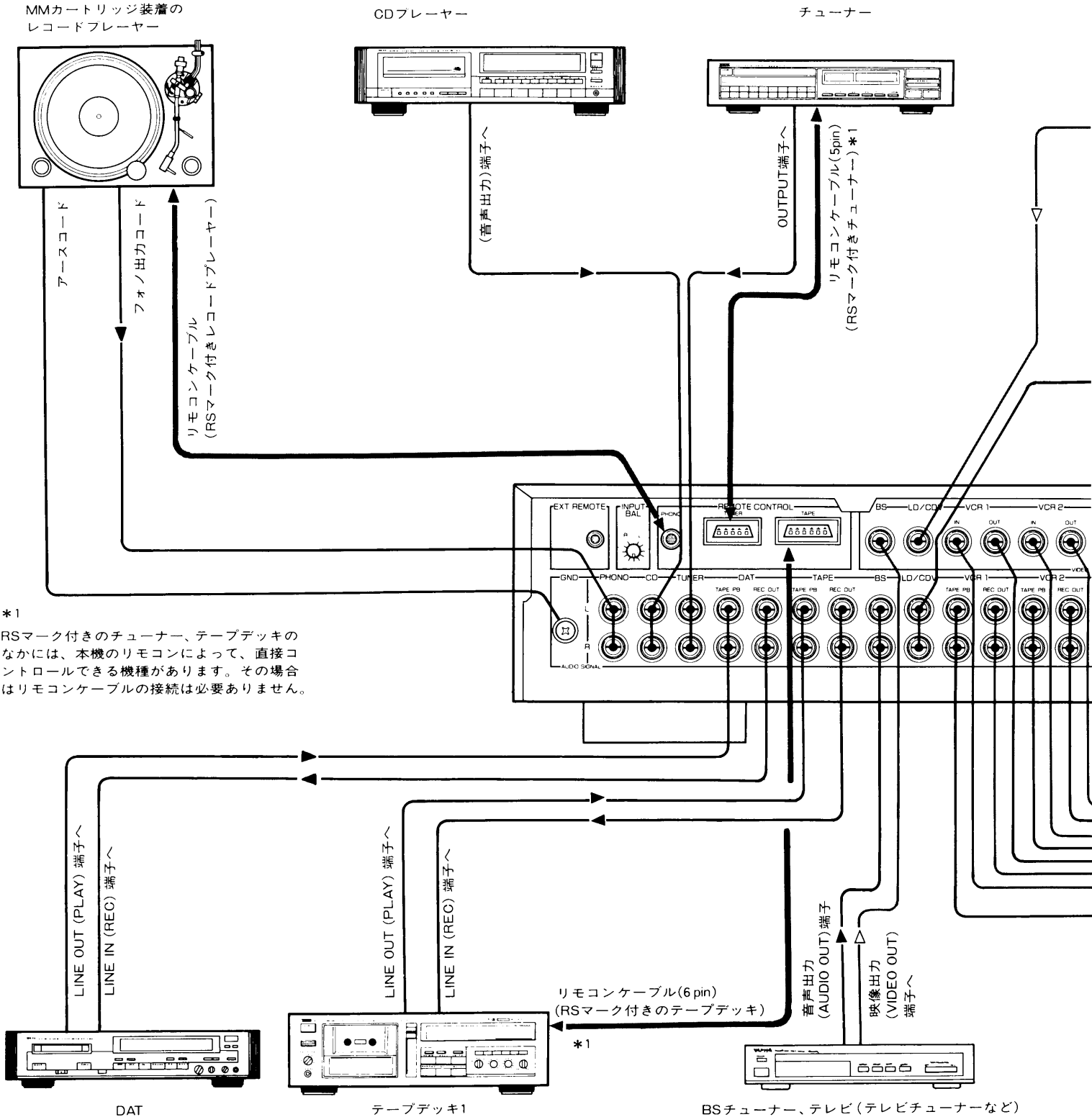


21ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

# システム接続図

- 接続の際は各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、IN(入力)、OUT(出力)を確認して正しく接続してください。
- 接続する機器によっては端子名などが異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もご参照ください。

- 接続に誤りがないことを確認してから、電源コードをACコンセントに差し込んでください。
- 本機が他の機器(テレビ、チューナーなど)に影響を与えるときは、それらの機器との設置場所を離してください。

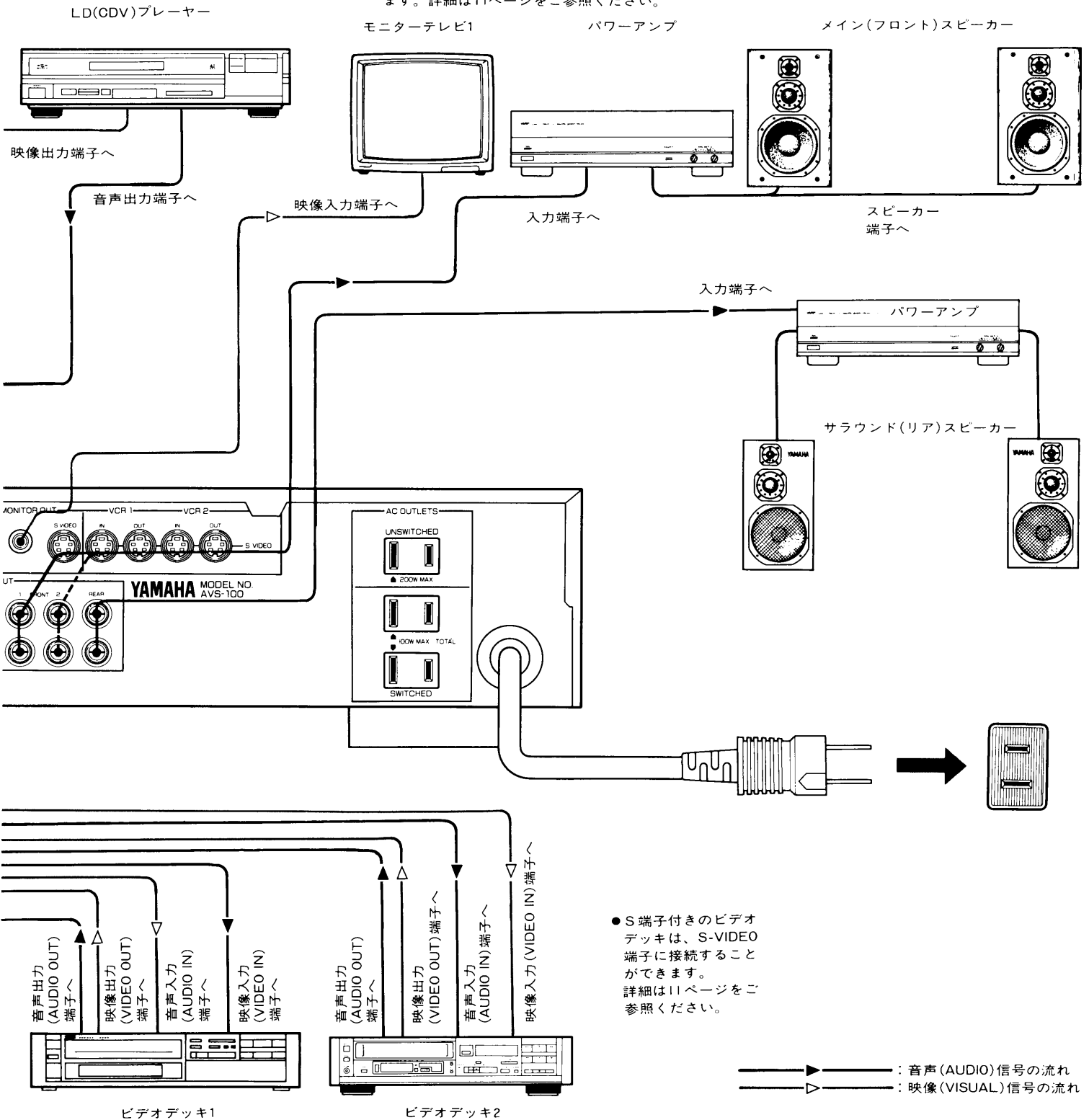


# システム接続図

●本機はアナログ接続専用です。接続する機器にアナログ、デジタルの両方がある場合は、アナログ入・出力端子を使って本機に接続してください。

●詳しい接続方法については9ページ～12ページをご参照ください。

\*2  
S端子付きのモニターテレビはS-VIDEO MONITOR OUT端子に接続することができます。詳細は11ページをご参照ください。



# 各部の名称とはたらき (1)

## サラウンド プロセッシング モード SURROUND PROCESSING MODEキー

サラウンド再生時にサラウンドモードを選択するキーです。  
OFF サラウンド再生を解除するときに押します。  
LIVE, HALL, SIM, ST, DOLBY SUR  
サラウンドモードを選択するキーです。  
選択されたモードは上のインジケータが点灯します。

## リア レベル REAR LEVELキー

サラウンド再生時にリアハネルのREAR端子に接続したパワーアンプを経由したリアスピーカーの音量を調整します。  
UP側を押すと音量が大きくなり、DOWN側を押すと音量が小さくなります。

## ディレイ タイム DELAY TIMEキー

サラウンド再生時にディレイタイムを選択するキーです。  
UP側を押しますとディレイタイムインジケータの点灯が左から右に移動し、DOWN側を押しますと、右から左に移動します。  
\*モノラルソースのときは、LIVE, HALL, DOLBY SUR, ではサラウンドスピーカーからの音は出なくなります。

## パワー POWERスイッチ

本機の電源をON、OFFするスイッチです。  
●ONにしますとボリュームその他のインジケータが点灯します。

## ホーンズ PHONESジャック

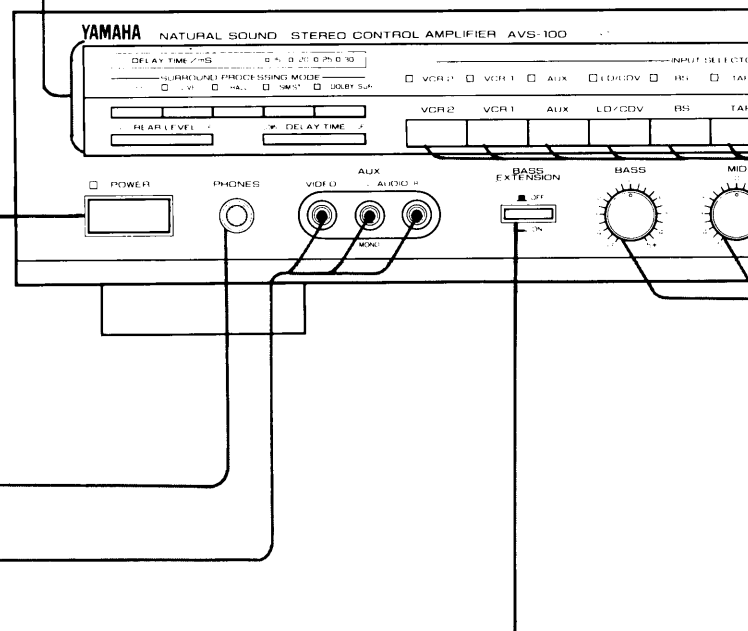
ステレオヘッドホンでモニターするときは、このジャックに接続します。  
ヘッドホンを接続しますと、スピーカーからの音はでなくなります。

## AUX端子

ビジュアル機器用の予備端子です。  
機器の映像出力端子とVIDEO端子を、音声出力端子とAUDIO L、R端子を接続します。  
●機器の音声出力がモノラルの場合はL MONO端子に接続します。

## リモート コントロール REMOTE CONTROL受光窓

付属のリモコンユニットからのコントロール信号(赤外線)を受光するところです。  
リモコンで操作する場合は、リモコンの送信窓を正しくこの受光窓に向けてください。



## バス イクステンション BASS EXTENSIONスイッチ

再生するソースより、低音域を補正したいときには、このスイッチをONにします。  
●ソースによっては効果が顕著に現れないことがあります。

# 各部の名称とはたらき(1)

## ミュートインジケータ MUTINGインジケータ

リモコンのMUTEキーを押しますと、このインジケータが点灯します。ミュート中は音量が-20dB(1/10)に下がります。

## インプットセクター INPUT SELECTOR キー

プログラムソースを選択します。

PHONO	レコードプレーヤー
TUNER	チューナー
DAT	DAT
TAPE	テープデッキ
CD	CDプレーヤーあるいはCDVプレーヤー
LD/CDV	レーザービジョンディスクプレーヤーあるいはCDVプレーヤー
BS	BSチューナーやテレビなど。
VCR 1	ビデオデッキ1
VCR 2	ビデオデッキ2
AUX	フロントパネルのAUX(補助入力端子)に接続した機器

## ボリューム VOLUMEコントロール/インジケータ

スピーカーシステムの音量を調整します。右に回すほど音量が大きくなります。電源がONのときはインジケータが点灯します。

## レックアウト REC OUTセクター

録音したいプログラムソースを選択します。このセクターで選択したプログラムソースはINPUT SELECTORで選択しているプログラムソースとは関係なく、各OUT(REC OUT)端子に出力されます。例えば、INPUT SELECTORでTUNERを選択し、FM放送を聞きながら、REC OUTセクターでCDを選択しCDをテープに録音することが同時に行えます。

## REC OUT 1とREC OUT 2について

REC OUT 2セクターでBS、LD/CDV、AUX、VCR 1、VCR 2を選択するときは、REC OUT 1をREC OUT 2の位置に合わせます。

PHONO	レコードを録音するとき。
CD	CDのプログラムを録音するとき。
TUNER	FM、AM放送などを録音するとき。
DAT	DATのプログラムを録音するとき。
TAPE	TAPEのプログラムを録音するとき。
BS	BSチューナーやテレビの音声を録音するとき。
LD/CDV	レーザービジョンディスクプレーヤーまたはCDVプレーヤーの音声を録音するとき。
AUX	AUX端子に接続した機器の音声を録音するとき。
VCR 1	VCR 1の音声を録音するとき。
VCR 2	VCR 2の音声を録音するとき。

## バランス BALANCEコントロール

メインスピーカーおよびリアスピーカーの左右の音量バランスを調整します。左に回しますと、右のスピーカーの音量が小さくなり、右に回しますと、左のスピーカーの音量が小さくなります。

## トーンコントロール

### トレブル TREBLEコントロール

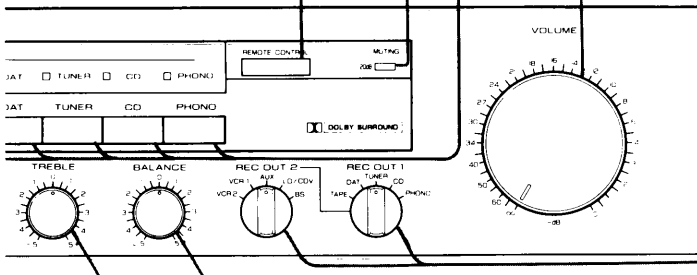
高音域を±10dBの範囲でコントロールします。つまみを右に回しますとブースト(増強)され、左に回しますとカット(減衰)されます。"0"の位置ではフラットな周波数特性となります。

### ミッド MIDコントロール

中音域を±10dBの範囲でコントロールします。つまみを右に回しますとブースト(増強)され、左に回しますとカット(減衰)されます。"0"の位置ではフラットな周波数特性となります。

### バス BASSコントロール

低音域を±10dBの範囲でコントロールします。つまみを右に回しますとブースト(増強)され、左に回しますとカット(減衰)されます。"0"の位置ではフラットな周波数特性となります。  
●トーンコントロールで調整できるのは、メイン(フロント)スピーカーおよびセンタースピーカーです。リア(サラウンド)スピーカーは調整できません。



# 各部の名称とはたらき (2)



**リモートコントロール REMOTE CONTROL 端子**

PHONO RSマークのあるレコードプレーヤーを付属のリモコンケーブルで接続します。

TUNER RSマークのあるチューナーを付属のリモコンケーブル (5pin) で接続します。

TAPE RSマークのあるカセットデッキを付属のフラコンケーブル (6pin) で接続します。

RSマーク付きのチューナー、テープデッキのなかにはリモコンで直接コントロールできる機種があります。その場合は接続は必要ありません。

**ビデオ信号 (映像) 入力・出力端子**

S-VIDEO ビデオデッキの入・出力S端子と接続します。VCR 1、VCR 2に2台のビデオデッキを接続することができます。

LD / CDV CDVプレーヤーまたはレーザービジョンディスクプレーヤーの映像出力端子と接続します。

BS BSチューナー、テレビなどの映像出力端子と接続します。

VCR 1 ビデオデッキの映像入・出力端子と接続します。

VCR 2 2台目のビデオデッキを接続します。

**インプットバランス INPUT BALANCE**

入力信号のL、Rバランスを調整します。

●詳細は「サラウンド再生について」15ページを参照ください。

**イクスターナルリモート EXT. REMOTE**

将来外部のリモコン受光部を接続する予備端子です。

**オーディオ信号 (音声) AUDIO SIGNAL**

PHONO MMカートリッジまたは高出力型MCカートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続します。

●MCカートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスあるいはMCヘッドアップをご使用になって、本端子に接続してください。

GND レコードプレーヤーにアース線がある場合は、ここに接続します。

TUNER チューナーを接続します。

DAT DATのアナログ入・出力端子を接続します。

TAPE テープデッキの入・出力端子を接続します。

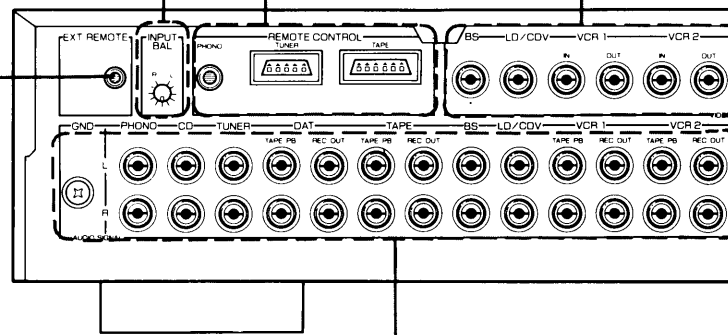
CD CDプレーヤーの音声出力端子と接続します。

LD / CDV レーザービジョンディスクプレーヤーまたはCDVプレーヤーの音声出力端子と接続します。

BS BSチューナーやテレビなどの音声出力端子と接続します。

VCR 1 ビデオデッキの音声入・出力端子を接続します。

VCR 2 2台目のビデオデッキの音声入・出力端子を接続します。





## 各部の名称とはたらき(2)

### モニター アウト MONITOR OUT 端子

S-VIDEO ビデオ モニターテレビの入力S端子と接続します。  
モニター モニターテレビの映像入力端子と接続します。

### AC OUTLET (電源供給コンセント)

#### アンスイッチド UNSWITCHED

本機のPOWERスイッチのON/OFFとは無関係に、消費電力が200Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。

#### スイッチド SWITCHED

本機のPOWERスイッチと連動しています。2つのAC OUTLETの合計消費電力が100Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。

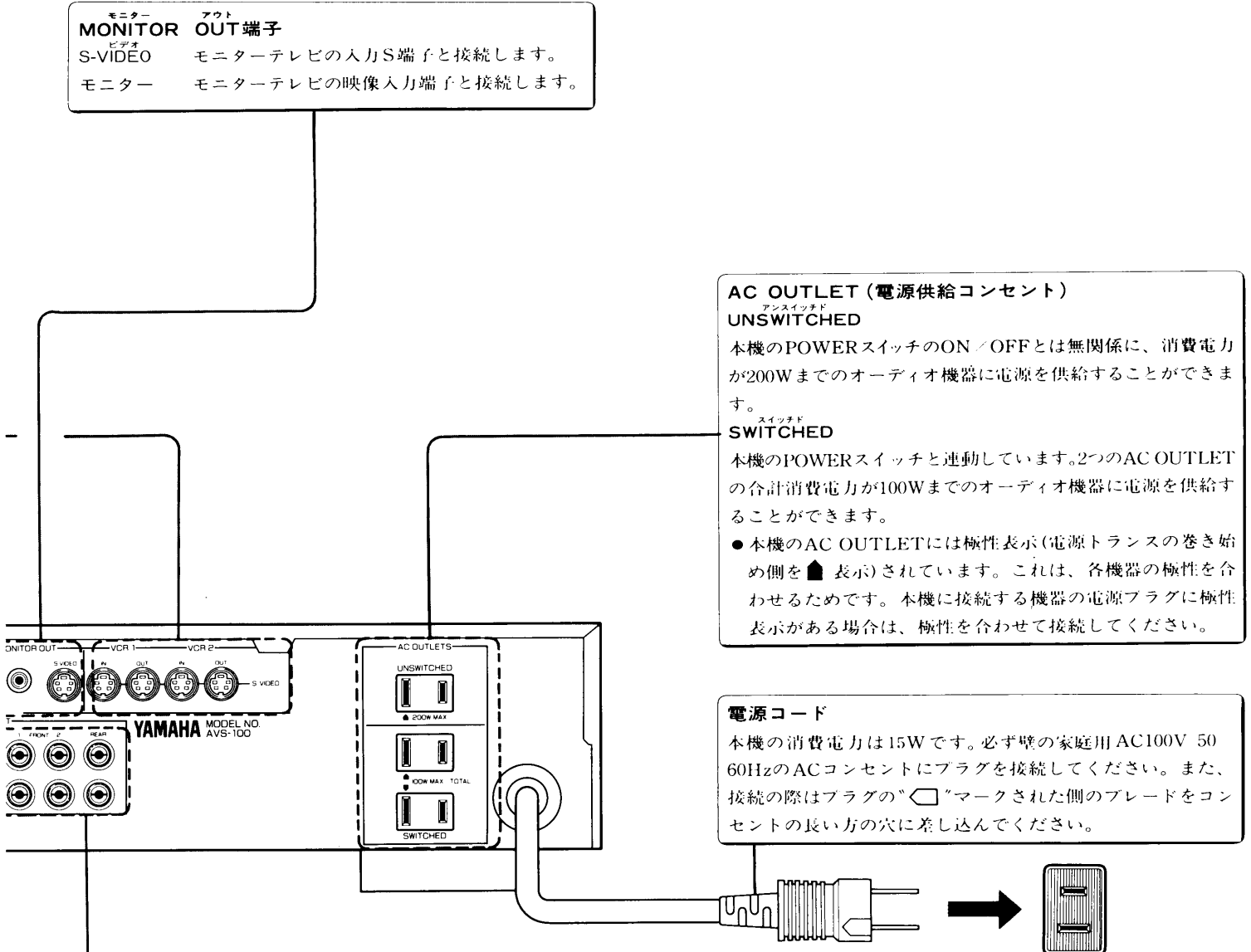
- 本機のAC OUTLETには極性表示(電源トランスの巻き始め側を▲表示)されています。これは、各機器の極性を合わせるためです。本機に接続する機器の電源プラグに極性表示がある場合は、極性を合わせて接続してください。

### 電源コード

本機の消費電力は15Wです。必ず壁の家庭用AC100V 50/60HzのACコンセントにプラグを接続してください。また、接続の際はプラグの◁マークされた側のブレードをコンセントの長い方の穴に差し込んでください。

### アウトプット OUTPUT 端子

フロント FRONT 1,2 フロント(メイン)の信号が出力されます。フロント(メイン)側のパワーアンプの入力端子に接続します。  
リア REAR リア(サラウンド)側のパワーアンプの入力端子に接続します。



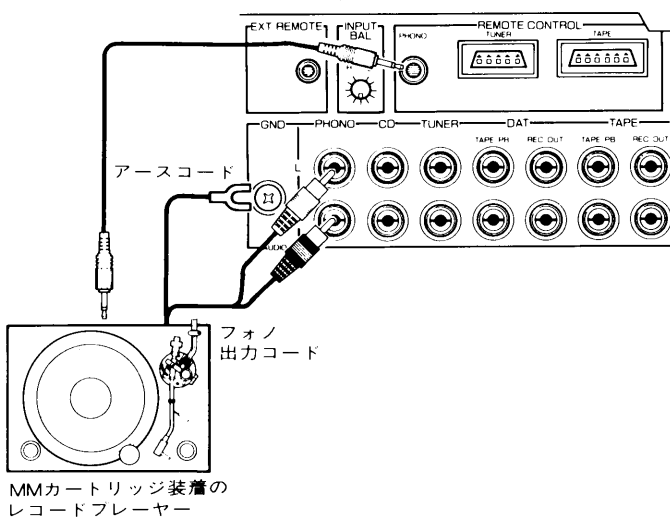
# 接続のしかた

- 接続の際は、本機および接続する機器の電源を必ず“OFF”にしてください。
- 接続する機器によっては端子名などが異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご参照ください。
- 接続するときは、各機器のIN (入力) OUT (出力) およびL (左チャンネル) R (右チャンネル)を確認し、確実に接続してください。
- 本機のビジュアル系の入・出力端子は黄色、オーディオ系の入・出力端子のLチャンネルは白色、Rチャンネルは赤色になっています。
- 接続に誤りが無いことを確認してから、本機の電源コードをACコンセントに接続してください。
- 本機が他の機器(テレビ、チューナー)などに影響を与えるようなときは、本機とその機器の設置場所を少し離してください。

## レコードプレーヤーの接続

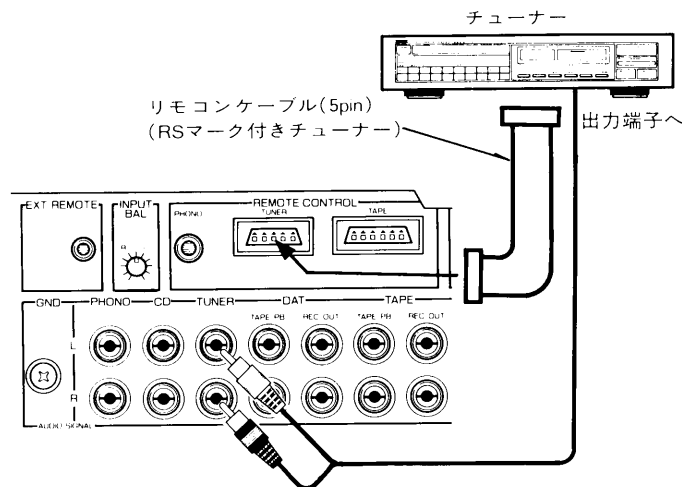
- ① MMカートリッジ付きレコードプレーヤーの出力コードをPHONO端子に接続し、アース線をGND端子に接続します。
  - MCカートリッジ付きレコードプレーヤーを使う場合は、本機とレコードプレーヤーの間に昇圧トランスあるいはMCヘッドアンプを接続します。詳しくは、昇圧トランスあるいはMCヘッドアンプの取扱説明書をご覧ください。
- ② RSマーク付きレコードプレーヤーと接続する場合は、付属のミニプラグ付きリモコンケーブルでレコードプレーヤーと本機のREMOTE CONTROL PHONO端子を接続します。

リモコンケーブル  
(RSマーク付きレコードプレーヤー)



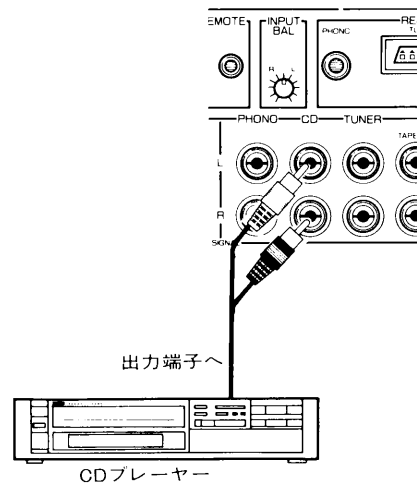
## チューナーの接続

チューナーの出力端子と本機のTUNER端子をピンプラグコードで接続します。RSマーク付きチューナーをご使用になる場合は、付属のリモコンケーブル(5ピン)を使用してチューナーのリモコン端子と本機のREMOTE CONTROL TUNER端子を接続します。



## CD(コンパクトディスク)プレーヤーの接続

CDプレーヤーの出力端子と本機のCD端子をピンプラグコードで接続します。



## LDプレーヤーまたはCDVプレーヤーの接続

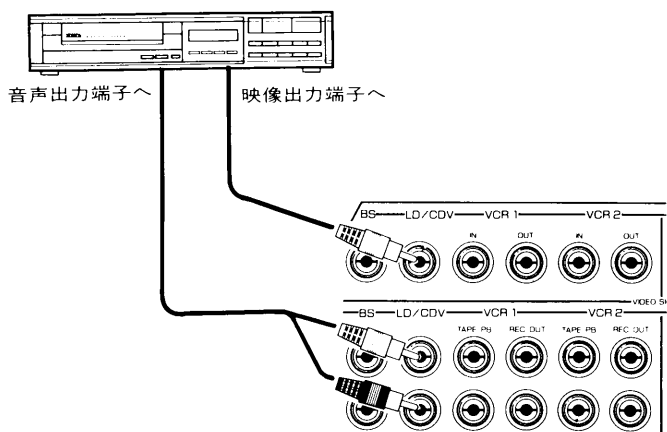
### 「映像出力端子の接続」

LDプレーヤーまたはCDVプレーヤーの映像出力端子と、本機のVIDEO SIGNAL LD/CDV(黄)をピンプラグコードで接続します。

### 「音声出力端子の接続」

LDプレーヤーまたはCDVプレーヤーの音声出力端子と、本機のAUDIO SIGNAL LD/CDV端子(白、赤)をピンプラグコードで接続します。

LDプレーヤー(CDVプレーヤー)



## BSチューナーの接続

### 「映像出力端子の接続」

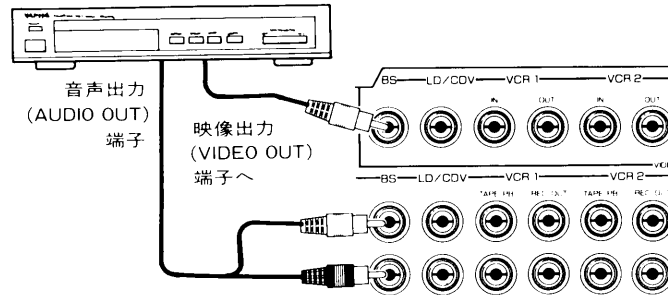
BSチューナーやテレビなど、ビデオ機器の映像出力端子と、本機のBS端子(黄)をピンプラグコードで接続します。

### 「音声出力端子の接続」

BSチューナーやテレビなど、ビデオ機器の音声出力端子と、本機のAUDIO SIGNAL BS端子(白、赤)をピンプラグコードで接続します。

- BSチューナーは、必ずアナログ入・出力端子を使って接続してください。

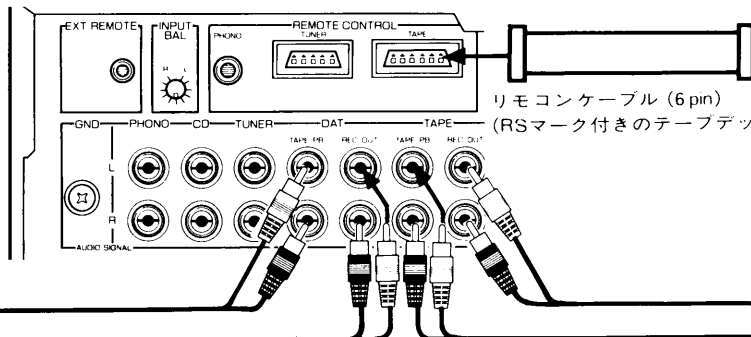
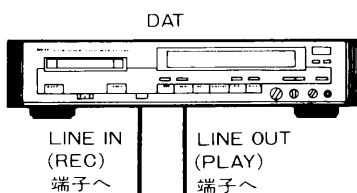
BSチューナー、テレビなど



## DATの接続

DATの出力端子(LINE OUT/PLAY)と、本機のDAT TAPE PB端子、およびDATの入力端子(LINE IN/REC)と、本機のDAT REC OUT端子をピンプラグコードで接続します。

- DATは、必ずアナログ入・出力端子を使って接続してください。



## テーブデッキの接続

テーブデッキの出力端子(LINE OUT/PLAY)と、本機のTAPE PB端子、およびテーブデッキの入力端子(LINE IN/REC)と、本機のTAPE REC OUT端子をピンプラグコードで接続します。

RSマーク付きテーブデッキをご使用になる場合、付属のリモコンケーブル(6ピン)を使用してテーブデッキのリモコン端子と本機のREMOTE CONTROL TAPE端子を接続します。

テーブデッキ



リモコンケーブル(6ピン)  
(RSマーク付きのテーブデッキ)

## 接続のしかた

### ビデオデッキ(VCR)の接続

#### 「映像入・出力端子の接続」

ビデオデッキの映像出力端子と、本機の VIDEO SIGNAL VCR 1 TAPE PB 端子(黄)間、およびビデオデッキの映像入力端子と、本機の VIDEO SIGNAL VCR 1 OUT 端子(黄)間を、ヒンブラグコードで接続します。

#### ■ S 端子付きビデオデッキは

ビデオデッキの S 出力端子と、本機の S-VIDEO IN 端子間、ビデオデッキの S 入力端子と、本機の S-VIDEO OUT 端子間を、専用コードで接続します。

#### 「音声入・出力端子の接続」

ビデオデッキの音声出力端子と、本機の AUDIO SIGNAL VCR 1 TAPE PB 端子(白、赤)間、およびビデオデッキの音声入力端子と、本機の AUDIO SIGNAL VCR 1 REC OUT 端子(白、赤)間を、ヒンブラグコードで接続します。

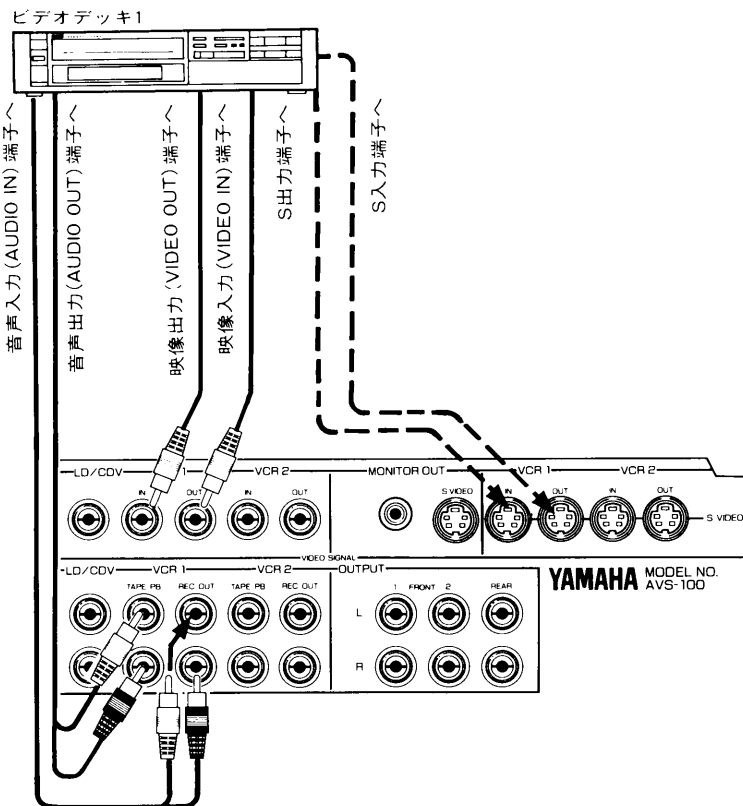
- 同様の方法で 2 台目のビデオデッキは VCR 2 に接続することができます。
- VCR  $\equiv$  ビデオデッキ (ビデオテープレコーダー)

#### S 入・出力端子について

- S 入・出力端子とピンジャック入・出力端子は別個の回路構成になっていますので、独立して機能します。
- S 入力は常に S-VIDEO OUT 端子に出力されていますので、S 端子付きのビデオデッキ同士では常にダビングが可能です。
- S 入力の INPUT SELECTOR とピンジャック入力の INPUT SELECTOR は連動しています。S 入力のないソースを選択している場合は、S 端子の MONITOR OUT には信号は出力されません。
- VCR 1 (または VCR 2) の S 端子と、ピンジャック端子の両方に接続されている場合、VCR 1 (または VCR 2) を INPUT SELECTOR で選択しますと、両方に信号が出力されます。S 信号かピンジャック信号のどちらをモニターするかは MONITOR 側で選んでください。  
\* S 端子の詳細はご使用になるモニターテレビの取扱説明書をご参照ください。

#### \* S 端子使用時の注意

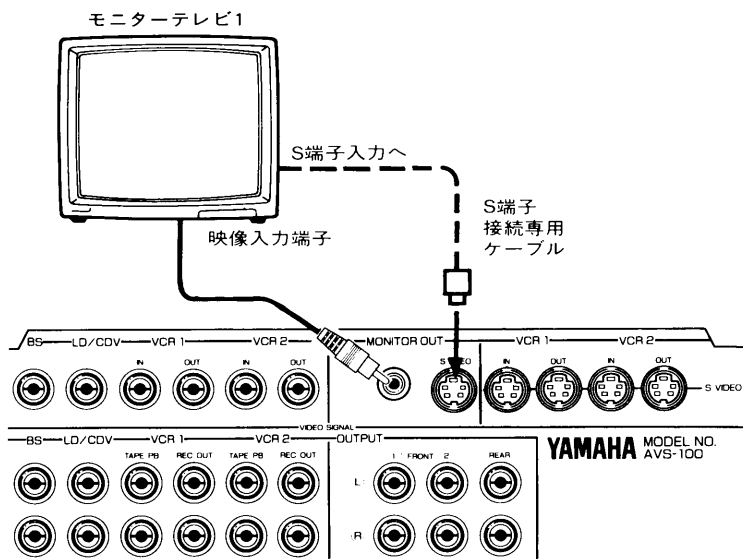
本機の回路構成上 VCR 1 と VCR 2 の S-VIDEO OUT 端子は、機器に接続しないケーブルを差し込んだまま (ケーブルの片方のコネクタのみ接続し、もう一方のコネクタを遊ばせている状態) 使用しないでください。



### モニターテレビの接続

モニターテレビの映像入力端子と、本機の MONITOR OUT 端子(黄)をヒンブラグコードで接続します。

- S 端子付きのモニターテレビは入力 S 端子と本機の MONITOR OUT の S-VIDEO 端子に接続します。



OUTPUT 端子の接続

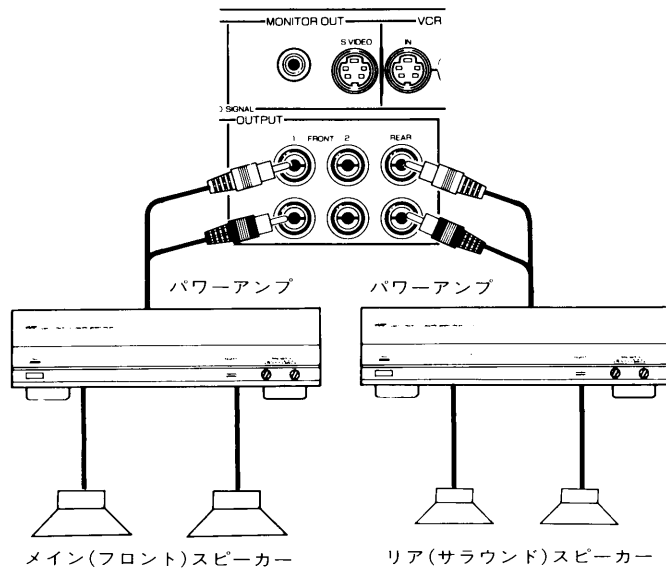
FRONT 1、2 端子

通常のステレオ再生あるいはサラウンド再生時のメイン（フロント）スピーカーを鳴らすパワーアンプの入力端子と接続します。

本機はFRONT 1、2の端子を使って2系統のメインスピーカーシステムを接続することができます。

REAR 端子

サラウンド再生時にリア（サラウンド）スピーカーを鳴らすパワーアンプの入力端子と接続します。



# 操作のしかた

## ■再生のまえに

- 電源を入れる前に、接続が間違いなく行われていることを確認してください。
- リモコンで操作する場合は、対応するキーをご使用ください。(リモコンについての詳細は19ページをご参照ください)

## ■電源のON/OFF

POWERスイッチを押しますと電源が入り、もう一度押しますと電源が切れます。

- \*電源がONになっても数秒間は本機のミューティング、プロテクション機能の働きにより音はでません。
- \*本機のINPUT SELECTORは電子スイッチを使っています。本機の電源をOFFにして、接続されている機器を直接ヘッドホン試聴する場合に、音が歪むことがあります。そのようなときは、本機の電源をONにしてください。
- \*スピーカー保護のため、必要な接続機器の電源をONにしたあと、本機のボリュームが絞られていることを確認してから本機の電源をONにしてください。

## オーディオソースの再生

- 1 本機および再生するオーディオ機器の電源をONにします。
- 2 INPUT SELECTORで再生したいオーディオソースを選び、そのインジケータを点灯させます。
- 3 オーディオ機器の再生を開始します。
  - オーディオ機器の操作方法は、それぞれの取扱説明書をご参照ください。
- 4 メイン(フロント)スピーカーの音量はVOLUMEコントロールで調整します。
- 5 サラウンド再生時、サラウンド(リア)スピーカーの音量は、REAR LEVELコントロールで調整します。
  - 必要に応じてTREBLE、MID、BASSの各トーンコントロールで音質を調整します。
  - 低音域をより強調したいときは、BASS EXTENSIONスイッチをONにします。

## ビジュアルソースの再生

- 1 本機、ビジュアル機器およびモニターテレビの電源をONにします。

- 2 INPUT SELECTORで、再生するビジュアルソースを選び、そのインジケータを点灯させます。
- 3 ビジュアル機器を操作し、再生します。
  - ビジュアル機器の操作方法は、それぞれの取扱説明書をご参照ください。
- 4 メイン(フロント)スピーカーの音量はVOLUMEコントロールで調整します。
- 5 サラウンド再生時、サラウンド(リア)スピーカーの音量は、REAR LEVELコントロールで調整します。

- 必要に応じてTREBLE、MID、BASSの各トーンコントロールで音質を調整します。
- 低音域をより強調したいときは、BASS EXTENSIONスイッチをONにします。

## テープデッキでの録音のしかた

- 1 本機および各機器の電源をONにします。
- 2 REC OUTセレクターで録音するプログラムソースを選びます。
- 3 テープデッキを操作して録音レベルを調整したあと、録音一時停止状態(REC PAUSE)にします。
- 4 録音するプログラムソースの再生をスタートし、同時にテープデッキの録音を開始します。
- 5 録音内容をモニターする場合は、録音をしているプログラムソースをINPUT SELECTORで選択します。
  - ビデオデッキをオーディオデッキとして録音に使用する場合も同様の操作を行ってください。
  - INPUT SELECTORで他のプログラムソースを選択しますと、録音をしながら、他の選択したプログラムソースを再生することができます。
  - テープデッキの操作は、テープデッキの取扱説明書をご参照ください。

## テープのダビング

テープデッキのプログラムをDATでダビングしたり、DATのプログラムをテープデッキでダビングすることができます。

### ● DAT→TAPE

DATからテープデッキへダビングするときは、REC OUT 1をDATの位置に合わせ、DATを再生しテープデッキで録音します。

### ● TAPE→DAT

テープデッキからDATへダビングするときは、REC OUT 1をTAPEの位置に合わせ、テープデッキを再生し、DATで録音します。

\* DAT端子に2台目のテープデッキを接続しますと、テープデッキ同士のダビングが、TAPE端子に2台目のDATを接続しますとDAT同士のダビングをすることができます。

## 録画のしかた

ビデオデッキ同士のダビングや、その他のビデオ機器のプログラムをビデオデッキで録画をすることができます。

- 1 本機および各機器の電源をONにします。
  - 2 REC OUT セレクターで録画をするプログラムソースを選びます。
  - 3 ビデオデッキを操作して録画一時停止状態にします。
  - 4 録画するプログラムソースの再生をスタートし、同時にビデオデッキの録画を開始します。
    - 映像と音声をモニターする場合は、再生をしているプログラムソースをINPUT SELECTORで選択します。
    - INPUT SELECTORで他のオーディオプログラムソースを選択しますと、録画をしながら、選択したプログラムソースを再生することができます。
- 2台のビデオデッキで同時に録画することができます。また音声のみを(オーディオ)テープデッキで録音することができます。
  - ビデオデッキの操作は、ビデオデッキの取扱説明書を参照してください。
  - 録画をするときは、あらかじめテスト録画をしてください。

## ビデオデッキのダビング

ビデオデッキを2台使用しますと、テープからテープへダビングをすることができます。

### ● VCR 1→VCR 2

ビデオデッキ1からビデオデッキ2へダビングするときは、REC OUT 1セレクターをREC OUT 2に合わせREC OUT 2で“VCR 1”を選択し、ビデオデッキ1を再生状態にし、ビデオデッキ2で録画します。

### ● VCR 2→VCR 1

ビデオデッキ2からビデオデッキ1へダビングするときは、REC OUT 1セレクターをREC OUT 2に合わせREC OUT 2で“VCR 2”を選択し、ビデオデッキ2を再生状態にし、ビデオデッキ1で録画します。

## タイマー録音・録画、タイマー再生のしかた

本機はマイコンが電源を切る前の状態を記憶(1時間通電しますと通常で1週間程度)していますので、市販のオーディオタイマーと組み合わせることにより、タイマー録音・録画やタイマー再生をすることができます。

- ご使用になるテープデッキ、ビデオデッキ、オーディオタイマーなどの取扱説明書をご参照になり、タイマー録音・録画やタイマー再生のための接続をします。

あなたが、テレビ放送やレコード、録画物などから録画録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

# サラウンド再生について

## ■サラウンドについて

本機は、コンサートホールやライブスポット、そして映画館で体験するような臨場感をリスニングルームに再現する、デジタル・サラウンド・プロセッサーを搭載しています。

再生するソースにより、4種類のサラウンドモードを使い分けてお楽しみください。

## ■スピーカーレイアウトについて

サラウンド再生には、従来の2チャンネルステレオで使用する2台のスピーカー(以下メインスピーカーと呼びます)とリスナーの後方に設置するサラウンドスピーカーの4台のスピーカーを設置します。

- メイン、サラウンドの各スピーカーは音質の似たものをお使いください。

## ■スピーカーの設置場所について

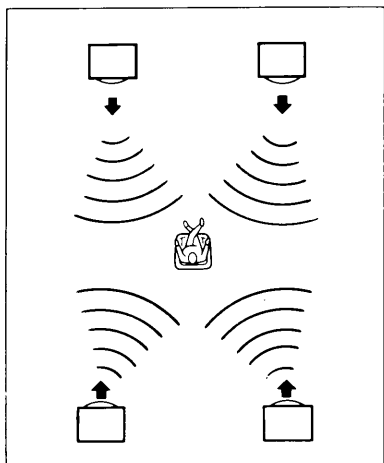
### メインスピーカー

従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。またモニターテレビを設置しているときは、左右のスピーカーとモニターテレビの距離を等しく設置してください。

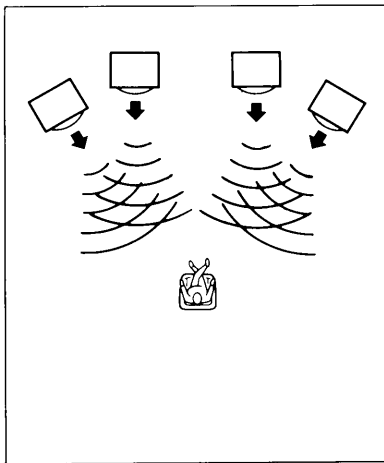
### サラウンドスピーカー

原則的にはリスナーの後方の壁にリスナーに向けて設置します。高さは床から1.8m位が適当です。しかし、サラウンドスピーカーの配置は、部屋の大きさや残響特性などにより、いろいろなパターンが考えられます。

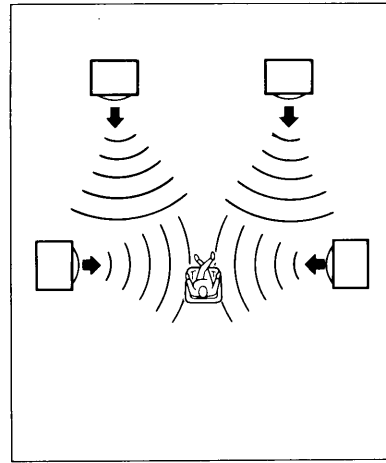
ここに示した配置例は、サラウンド空間をより効果的にお楽しみいただくための代表的な例です。それ以外にもいろいろな配置があります。お好みに合わせてセットしてお楽しみください。



標準的な置き方



前方に4つのスピーカーを配置する場合  
左右の壁が板やコンクリートなどの場合は、図とは逆に壁側に向けると良い結果が得られる場合があります。



スピーカーを左右に配置する場合  
サラウンドスピーカーは少し高い所から下向に置くと良い結果が得られる場合があります。



## ■サラウンド再生の準備

メインの音とサラウンドの音のバランスがとれていまいと良いサラウンド効果は得られません。下記の手順に従って各スピーカーの音量バランスを調整してください。

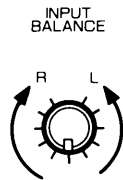
- ①本機およびご使用になる機器すべての電源を“ON”にします。
- ②再生するプログラムソースを本機に入力します。

### 入力バランスの調整

効果的なサラウンド再生を行うために、L、Rの入力バランス調整を行います。

- ③左右のサラウンドスピーカーから出る、センターの音（会話などの部分）が最小になるように、リアパネルのINPUT BALANCEコントロールを回して調整します。

このときサラウンドモードはDOLBY SUR.にしてください。



### 各スピーカーの音量バランスの調整

メイン、サラウンド各スピーカーの音量バランスを調整します。

- ④メインスピーカーの音量を調整します。
  - サラウンドスピーカーの音量をREAR LEVELコントロールで絞ります。
- ⑤サラウンドモードや、好みによりサラウンドスピーカーの音量を調整します。
  - サラウンドスピーカーは、本機のVOLUMEコントロール、REAR LEVELコントロールあるいは外部アンプのボリュームを操作して、音量バランスを調整してください。

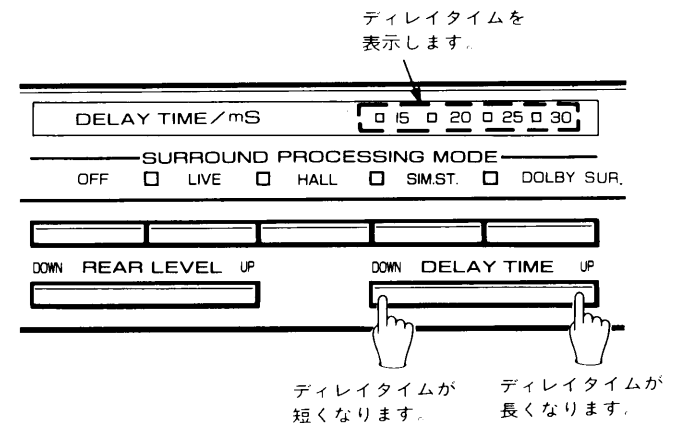
## ■サラウンド再生のしかた

- 1 接続した各機器の電源を入れます。
- 2 SURROUND PROCESSING MODEキーで再生するサラウンドモードを選択します。
  - モノラルソースをサラウンド再生する場合は、SIM.ST.のサラウンドモードを選択してください。LIVE、HALL、DOLBY SUR.のサラウンドモードではサラウンドスピーカーから音は出なくなります。
- 3 接続した機器を操作して、ソース信号を入力します。
- 4 INPUT SELECTORで再生したいプログラムを選びVOLUMEコントロールで音量を調整します。
- 5 サラウンドスピーカーの音量はREAR LEVELキーで調整します。
- 6 必要に応じてDELAY TIMEキーを使ってディレイタイムを調整してください。

## ■DELAY TIMEについて

各サラウンドモードには、そのモードに適したディレイタイムがプリセットされていますが、再生するソースやリスニングルームの状況により、ディレイタイムを変えることができます。

ディレイタイムを長めに設定しますと大きめの音場空間が、短かめに設定しますと、小さめの音場空間が創造されます。



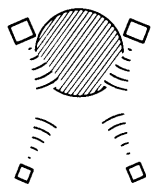
## ■通常のステレオ再生

SURROUND MODEのOFFスイッチを押しますと、通常のステレオ再生をすることができます。

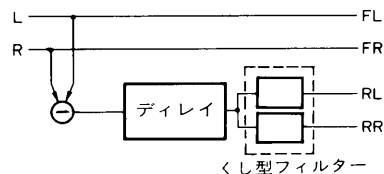
- 通常のステレオ再生時は、サラウンドスピーカーから音はでません。

# サラウンド再生の種類と特長

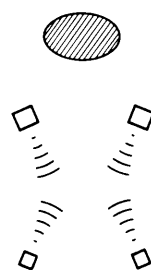
## ライブサラウンド LIVE SURROUND



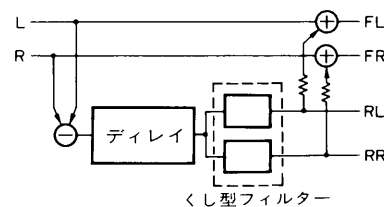
ステレオソースの再生に適したポジションです。音場が晴れやかな感じになり、リスニングルーム全体に残響感が充満します。スタジオ録音のロックやフュージョンなど、比較的狭いリスニングルームに響き渡るようなソースの再生に適しています。



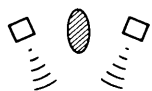
## ホールサラウンド HALL SURROUND



ホールの空間を強調するポジションです。「大きなホールのオペラ」や「野外コンサート」などの雰囲気を作成することができます。聴取位置は、ホールの中程の席というイメージです。



## シミュレーテッドステレオ SIMULATED STEREO



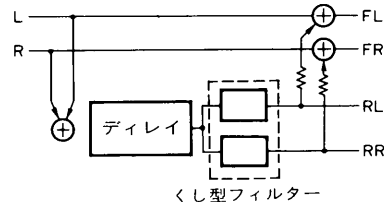
通常のモノラル再生

モノラルソースの再生に適したポジションです。通常のモノラル再生に比較しますと、音像イメージは前方に出て広がります。またソースの持つエネルギー感も増強されます。

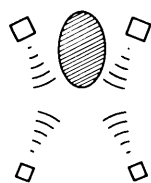
このポジションは、せりふ部分などが迫力を増しますので、「モノラル映画」や「ニュース」などのソースの再生に適しています。



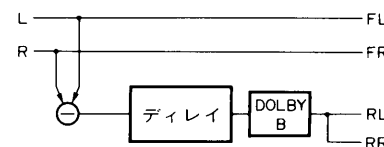
SIMULATED STEREO



## ドルビーサラウンド DOLBY SURROUND



**DOLBY SURROUND** マークの付いたビジュアルソフトを再生するときは、このポジションにします。これらのビジュアルソフトは、ドルビーステレオならではの迫力と音響効果を生み出すために、ドルビー独自のシステムでエンコード録音されています。本機はドルビーサラウンドデコーダーを内蔵していますので、劇場で体験するのと同じような臨場感と音響効果をもって再生することができます。



※  **DOLBY SURROUND**

「ドルビー」およびダブルD記号は、ドルビー研究所の登録商標です。本機はドルビー研究所のライセンスに基づき製造された製品です。

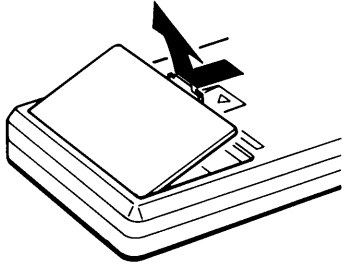
FL：フロント左側スピーカー  
FR：フロント右側スピーカー

RL：リア左側スピーカー  
RR：リア右側スピーカー

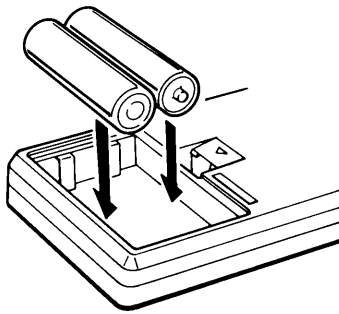
# リモコンについて

## ■電池の入れかた

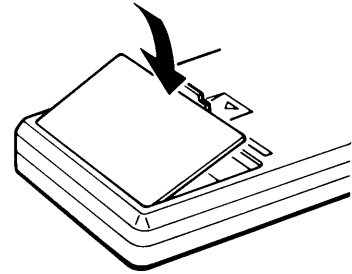
1 リモコンの裏ふたを開けます。



2 単3乾電池2本をケース内の指示に従って⊕、⊖を正しく入れます。



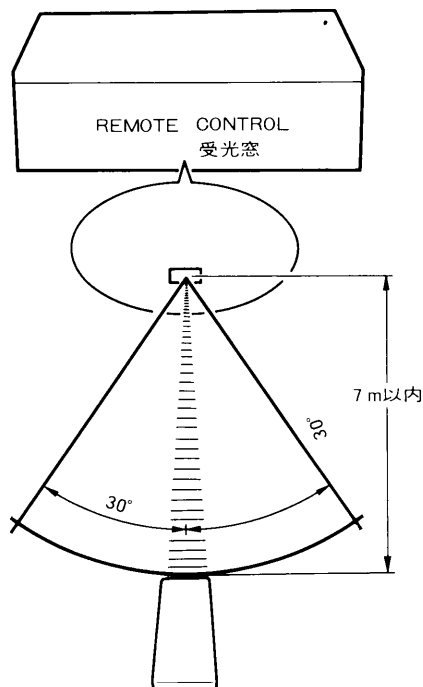
3 カチッと音がするまで裏ふたを閉めます。



## ■リモコンのご使用にあたって

リモコンは、直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて、正しく操作してください。受光部を覆ったり、リモコンと受光部の間に障害物があると動作しません。また受光部に強い光が当たると、誤動作することがありますので注意してください。

リモコンの使用範囲は

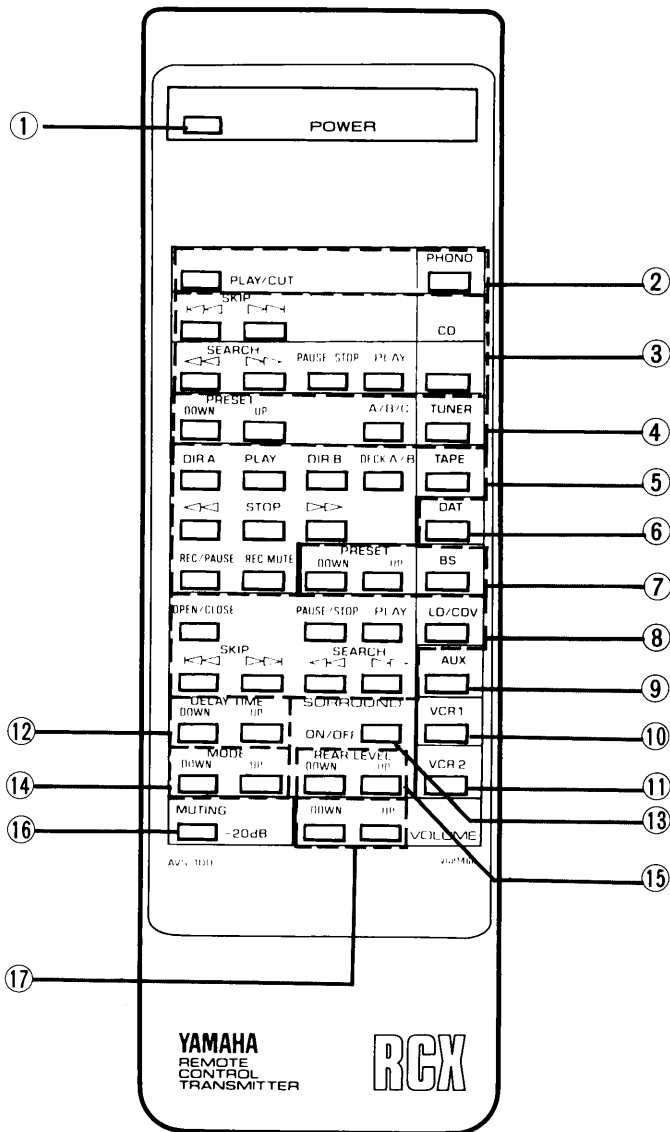


## ■乾電池についてのご注意

- プラス(⊕)とマイナス(⊖)の向きを、リモコンの電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 弱ってきた電池は、早めに交換してください。
- 新しい乾電池と一度使用したものを混ぜて使わないでください。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 電池には充電式とそうでないものがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。
- 電池の⊕と⊖を金属片などで直接つなぐこと(ショート)はしないでください。
- 分解や加熱をしたり、火の中に入れてたりしないでください。万一液もれが起こったときは、電池ケースについた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

# リモコンについて

## リモコン各部の名称とはたらき



### ① POWERキー

本機の電源をON/OFFします。

\* リモコンで電源をOFFにしますと本体のPOWERインジケータが暗く点灯します。

### ② PHONO—レコードプレーヤーコントロールセクション

PHONO 本機の入力をPHONO(レコードプレーヤー)に切り替えます。

PLAY/CUT リモートコントロールケーブルで接続した、RSマーク付きレコードプレーヤーの演奏を開始/終了します。

### ③ CD—CDプレーヤーコントロールセクション

CD 本機の入力をCDに切り替えます。

●RSマークの付いたCDプレーヤーは以下のキーを使いますとダイレクトにコントロールすることができます。

SKIP 前後の曲を頭出し再生します。

SEARCH 早送り/早戻し再生をします。

PAUSE/STOP 一度押すと再生が一時停止し、もう一度押すと停止します。

PLAY 再生を開始します。

### ④ TUNER—チューナーコントロールセクション

TUNER 本機の入力をTUNERに切り替えます。

●RSマークの付いたチューナーは以下のキーを使いますとダイレクトにコントロールすることができます。

PRESET DOWN/UP

DOWNキーを押すごとに、チューナーにプリセットされている放送局の番号が1つずつ減ります。またUPキーを押すごとに番号が1つずつ増えます。

A/B/C チューナーの「P1-P8/P9-P16…」キーとおなじ動きをします。キーを押すごとにプリセット群を切り替えます。

### ⑤ TAPE—テープデッキコントロールセクション

TAPE 本機の入力をTAPEに切り替えます。

●RSマークの付いたテープデッキは以下のキーを使いますとダイレクトにコントロールすることができます。

DIR A / DIR B

ダブルデッキのデッキAまたはデッキBのテープ走行方向を切り替えます。

PLAY テープの走行が開始します。

DECK A/B ダブルデッキの場合に、操作をするデッキ、AまたはBを選択します。

◀◀/▶▶ テープの走行方向を切り替えます。

**STOP** テープ走行をストップします。  
**REC/PAUSE** 録音スタンバイになります。  
**REC MUTE** 録音中に無録音部分を作ります。

## ⑥ DATキー

本機の入力をDATに切り替えます。

## ⑦ BS—衛星放送チューナーコントロールセクション

**BS** 本機の入力をBS(衛星放送チューナー)に切り替えます。

●RSマークの付いた衛星放送チューナーは以下のキーを使いますとダイレクトにコントロールすることができます。

**PRESET DOWN/UP**

DOWNキーを押すごとに、チューナーにプリセットされている放送局の番号が1つずつ減ります。またUPキーを押すごとに番号が1つずつ増えます。

## ⑧ LD/CDV—LD/CDVコントロールセクション

**LD/CDV** 本機の入力をLD/CDVに切り替えます。

●RSマークの付いたLD/CDVプレーヤーは以下のキーを使いますとダイレクトにコントロールすることができます。

**OPEN/CLOSE** ディスクトレイを開閉します。

**PAUSE/STOP** 一度押すと再生が一時停止し、もう一度押すと再生が停止します。

**PLAY** 再生を開始します。

**SKIP** 前後の曲を頭だし再生します。

**SEARCH** 早送り/早戻し再生をします。

## ⑨ AUXキー

本機の入力をAUXに切り替えます。

## ⑩ VCR 1 キー

本機の入力をVCR 1に切り替えます。

## ⑪ VCR 2 キー

本機の入力をVCR 2に切り替えます。

## ⑫ DELAY TIME DOWN /UPキー

サラウンド再生時のディレイタイムを選択します。

DOWNキーを押すごとにディレイタイムインジケータが右から左に移動し、UPキーを押すごとに左から右に移動します。

## ⑬ SURROUND ON/OFFキー

サラウンドモードをオン/オフします。

## ⑭ MODE DOWN/UPキー

サラウンドモードを選択します。

DOWNキーを押すごとにサラウンドモードが左から右に切り替わり、UPキーを押すごとに右から左に切り替わります。

## ⑮ REAR LEVEL DOWN/UPキー

サラウンド再生時のリアスピーカーの音量を調整します。DOWN側を押しますとリアスピーカーの音量が下がり、UP側を押しますと音量が上がります。

## ⑯ MUTING (-20dB)キー

押すとスピーカーの音量が-20dB(1/10)に下がります。もう一度押すと元の音量に戻ります。

## ⑰ VOLUME DOWN/UPキー

スピーカーの音量を調整します。

DOWN側を押しますとスピーカーの音量が下がり、UP側を押しますと音量が上がります。

# 故障かなと思ったら



本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点に、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください
音が出ない	インプットセレクターが、再生したいプログラムソースにセットされていない	再生したいプログラムソースのインジケータを点灯させてください。
	ボリュームが絞られている	VOLUMEコントロールまたはリモコンのVOLUMEキーで、音量を上げてください
	接続が不完全	接続を確認してください
片チャンネルの音が出ない	BALANCEコントロールがどちらか一方に回し切られている	BALANCEコントロールで左右の音量バランスを調整してください
	接続が不完全	接続を確認してください
ハム音がでる	ピンプラグコードの接続が不完全	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください
	レコードプレーヤーのアースコードを接続していない	アースコードを本機のGND端子に接続してください
レコード演奏のときに音が小さい	MCカートリッジを装着したレコードプレーヤーを演奏している	MCカートリッジ装着のレコードプレーヤーはMCヘッドアンプを使って本機に接続してください。
VOLUMEコントロールを回しても音量があまり上がらない	MUTINGがONになっている	一度VOLUMEコントロールを左に回しきり、音量を下げてから、リモコンでMUTINGをOFFにし、再度音量を調整してください
サラウンド(リア)スピーカーから音がでない	リアレベルが最小になっている	REAR LEVELキーのUP側を押して、レベルを上げてください
	モノラルソースに不適当なサラウンドモードで再生している。	LIVE、HALL、DOLBYのサラウンドモードはモノラルソースには対応していません。SIM、STのサラウンドモードで再生してください。
リモコンで操作できない	乾電池が消耗している	乾電池を2本とも交換してください
	本体のリモコン受光窓との間に障害物がある	本体のリモコン受光窓に対して7m以内、角度30度以内の範囲で操作してください

本機に接続しているCDプレーヤーやカセットデッキにヘッドホンを接続してモニターをすると音が歪む。	本機の電源をOFFにしている	本機の電源をONにしてください
RSマーク付きのプレーヤー、チューナー、テープデッキの操作ができない。	リモコンケーブルは接続しているが、音声用のピンプラグコードが完全に接続されていない	音声用のピンプラグコードをしっかりと接続してください
RSマーク付きのプレーヤーが操作できない。	プレーヤーのリモコンケーブルをEXT REMOTE端子に接続している	接続を確認してください

# 参考仕様

## コントロールアンブセクション

入力感度/入力インピーダンス		
PHONO MM		2.5mV/47k $\Omega$
CD 他		150mV/47k $\Omega$
最大許容入力		
PHONO MM (1kHz)		80mV
出力電圧/出力インピーダンス		
REC OUT		150mV/470 $\Omega$
FRONT OUT		1.5V/560 $\Omega$
REAR OUT		1.5V/560 $\Omega$
ヘッドホン出力/ヘッドホンインピーダンス		2V/100 $\Omega$
周波数特性		
CD 他 (20Hz~20kHz)		-3~+1dB
全高調波歪率 (20Hz~20kHz)		
PHONO MM (1V) $\rightarrow$ RECOUT		0.005%
CD 他 $\rightarrow$ ROUT OUT (3V)		0.005%
S/N比 (IHF-A)		
PHONO MM (2.5mV入力ショート)		80dB
CD 他 (入力ショート)		96dB
残留ノイズ (IHF-A)		
		20 $\mu$ V以下
チャンネルセパレーション (1kHz)		
PHONO MM (Vol. $\downarrow$ -30dB ショート)		65dB以上
CD 他 (Vol. $\downarrow$ -30dB 5.1k $\Omega$ )		65dB以上
トーンコントロール		
BASS	可変幅	$\pm$ 10dB(50Hz)
	ターンオーバー周波数	350Hz
MID	可変幅	$\pm$ 10dB(1kHz)
	センター周波数	1kHz
TREBLE	可変幅	$\pm$ 10dB(20kHz)
	ターンオーバー周波数	3.5kHz
バスエクステンション (70Hz)		+7dB

## ビデオセクション

テレビジョン方式	日米標準方式	525本 60フィールド
定格入力		1.0V <sub>P-P</sub> 75 $\Omega$ 不平衡
定格出力		1.0V <sub>P-P</sub> 75 $\Omega$ 不平衡
許容入力		1.5V <sub>P-P</sub> 75 $\Omega$ 不平衡
S/N比		50dB
Sビデオ入力-Y信号		1.0V <sub>P-P</sub> 75 $\Omega$ 不平衡
Sビデオ入力-C信号		0.3V <sub>P-P</sub> 75 $\Omega$ 不平衡
Sビデオ出力-Y信号		1.0V <sub>P-P</sub> 75 $\Omega$ 不平衡
Sビデオ出力-C信号		0.3V <sub>P-P</sub> 75 $\Omega$ 不平衡

## 総合

電源電圧	AC 100V 50/60Hz
消費電力	15W
ACアウトレット	
SWITCHED $\times$ 2	100W max
UNSWITCHED $\times$ 1	200W max
外形寸法 (W $\times$ H $\times$ D)	435 $\times$ 95 $\times$ 336mm
重量	5kg
付属品	リモコン 1
	単3乾電池 (SUM-3) 2
	リモコンケーブル(カセットデッキ用) 1
	リモコンケーブル(チューナー用) 1
	リモコンケーブル(レコードプレーヤー用) 1
	ピンプラグコード(音声用) 1
	ピンプラグコード(映像用) 1

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

# ヤマハホットラインサービスネットワーク



ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## ●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

## ●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## ●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

## ●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年（テープデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## ●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

（右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。）

## ●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また**製品の品名、製造番号**などもあわせてお知らせください。※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## ■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

（電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口）

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内 TEL(011)513-5036
仙台	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236-0249
東京	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL(025)243-4321
浜松	〒435 浜松市上西町911番地 ヤマハ宮竹工場内 TEL(0534)65-6711
名古屋	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL(06)877-5262
四国	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ高松店内 TEL(0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL(082)874-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

## ■お客様ご相談窓口

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内 北海道営業所 TEL(011)512-6115
仙台	〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉台通ビル4F 東北営業所 TEL(022)223-3101
東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F 特販営業所 TEL(03)255-1825 首都圏第一営業所 TEL(03)255-5691 首都圏第二営業所 TEL(03)255-5691 神田営業所 TEL(03)255-6767 販売二課 TEL(03)255-2302
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル 北関東営業所 TEL(025)241-2084
千葉	〒260 千葉市千葉港2-1 千葉コミュニティセンター1F 千葉営業所 TEL(0472)47-6622
神奈川	〒211 川崎市中原区木月1184 ヤマハ日吉センター内 神奈川営業所 TEL(044)434-4871
浜松	〒433 浜松市幸3-5-8 ヤマハ四ッ池センター内 浜松営業所 TEL(0534)71-1207
名古屋	〒464 名古屋市中区千種区東山通5-65 ヤマハ東山センター内 中部営業所 TEL(052)782-7551 販売二課 TEL(052)782-7551
大阪	〒556 大阪市浪速区数津東1-9-16 ヤマハなんばセンター内 関西営業所 TEL(06)647-6411 日本橋営業所 TEL(06)647-6411 中央営業所 TEL(06)647-6411 販売二課 TEL(06)647-6411
広島	〒730 広島市中区紙屋町1-1-20 いよぎん広島ビル内 中国営業所 TEL(082)244-3745
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 九州営業所 TEL(092)472-2131
本社	〒430 浜松市中沢町10-1 ホームエレクトロニクス事業本部 お客様ご相談センター TEL(0534)60-3421

## ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

ホームエレクトロニクス事業本部

国内販売統括部

TEL.(0534)60-3421

生産管理部サービス技術課

TEL.(0534)60-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります。